

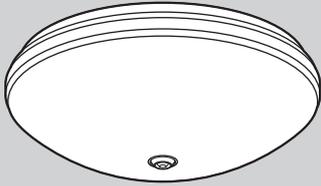
保管用

施工説明付き

保証書別添付

## 取扱説明書

枠なしタイプ



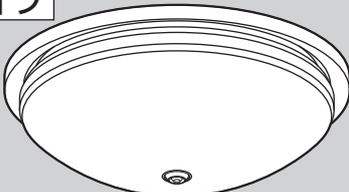
LGBC81022LE1

光色:昼白色

LGBC81023LE1

光色:電球色

枠ありタイプ



LGBC81032LE1

光色:昼白色、木製(メイプル調)

LGBC81042LE1

光色:昼白色、木製(ウォールナット調)

LGBC81033LE1

光色:電球色、木製(メイプル調)

LGBC81043LE1

光色:電球色、木製(ウォールナット調)

## 住宅用照明器具 (FreePa シーリングライト)

### LEDシリーズ

お客様へ

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。  
特に、ご使用前に「安全上のご注意」(2~3ページ)を必ずお読みください。  
保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

工事店様へ

- この説明書は必ずお客様にお渡しください。
- 施工説明に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。  
また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

施工前に必ず器具を底板(包装材)から取り外してください。

### 器具を底板から取り外す方法

- ①器具のカバーを外す  
☞6ページ「カバーの外しかた」参照
- ②器具中心部のセンターパッド(包装材)の「押」ボタン部(2カ所)を押しながら本体を持ち上げる



LED — 小型センサー — ②

## もくじ

安全上のご注意	2
ご使用上に関するお知らせ	3
配線について	4
この器具の使いかた	4
各部のなまえと付属部品	4
照明器具を取り付ける	5
照明器具を取り外す	6
検知範囲とエリアカット	7
センサの設定	8
連続点灯への切り替えかた	9
故障かな?と思ったら	9
お手入れについて	裏表紙
仕様	裏表紙
保証とアフターサービス	裏表紙

# 安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

■ お守りいただく内容を、次の図記号で説明しています。(下記は図記号の一例です。)

**警告** 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

**注意** 「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

してはいけない内容です。

実行しなければならない内容です。

## 警告

### ■ 取付面

● 次のような場所には取り付けない

火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

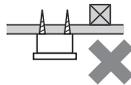
- ・ 平面部が直径500mm未満の場所 (例：下図)



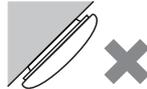
- ・ 凹凸のある場所 (例：下図)



- ・ 補強のない場所 (ベニヤ板や石膏ボードなど)



- ・ 傾斜した場所

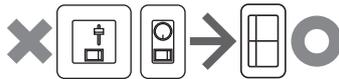


◎この器具は水平天井面取り付け専用です。

### ■ 壁スイッチ

● 調光機能が付いた壁スイッチの場合は、一般の入切用スイッチに交換する

火災のおそれがあります。



◎販売店、工事店に交換を依頼してください。(取り外しには資格が必要です。)

### ■ 配線器具

● がたついたり、破損している配線器具 (ローゼット・引掛シーリング) には取り付けない

火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

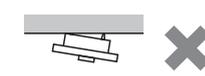


● 適正な状態にない配線器具には無理に取り付けない

落下によるけがのおそれがあります。内装材の重ね貼りなどにより出しりが小さくなったもの



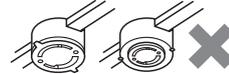
斜めに取り付けられたもの



シーリングハンガーが取り付けられたもの



ケースウェイに取り付けられたもの



電源端子露出タイプ



### ■ その他

● 器具を改造したり、部品交換をしない  
火災、感電、落下によるけがのおそれがあります。

● 異常を感じた場合、速やかに電源を切る  
異常状態が収まったことを確認し、販売店またはお客様ご相談窓口(保証書内在中)にご相談ください。

● 交流100ボルトで使用する  
過電圧を加えると過熱し、火災、感電のおそれがあります。

● アダプタは確実に取り付ける  
落下してけがのおそれがあります。

● 本体は確実に取り付ける  
破損して感電のおそれがあります。

● 本体が簡単に回転しないことを確認してからカバーを取り付ける  
破損して感電のおそれがあります。



# ⚠ 注意



必ず守る

- 照明器具には寿命があります。設置して10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行しています。  
点検・交換してください

点検せずに長期間使い続けるとまれに火災、感電、落下などに至る場合があります。

- ◎1年に1回は「安全チェックシート」(保証書内在中)に基づき、自主点検してください。

- カバーは確実に取り付ける  
落下してけがのおそれがあります。



水ぬれ禁止

- 浴室など湿気が多い場所や屋外で使わない  
火災、感電の原因となることがあります。

- ◎この器具は防湿、防雨型ではありません。



接触禁止

- 点灯中や消灯直後はLEDやその周辺にさわらない  
やけどの原因となることがあります。

- ◎お手入れは電源を切り、LEDやその周辺が冷めてから行ってください。



禁止

- 温度の高くなるものを器具の真下に置かない  
火災の原因となることがあります。

- ◎器具の真下にストーブなどを置かないでください。

- カバーを外した状態で点灯したLEDを長時間直視しない

目の痛みの原因となることがあります。

- 柵ありタイプ※の場合、  
カバーを外す時は柵を持って回さない  
本体が落下してけがの原因となることがあります。

- アングルを持って器具を持ち上げない  
器具破損の原因となることがあります。

- 柵ありタイプ※の場合、  
柵を持って器具を持ち上げない  
器具破損の原因となることがあります。

※: 柵ありタイプの品番は、表紙をご参照ください。

## ご使用上に関するお知らせ

故障や異常ではありません

### 【器具自体の留意点】

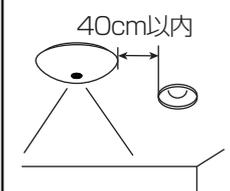
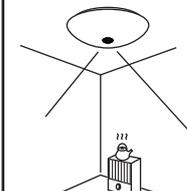
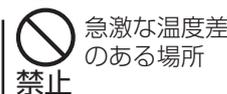
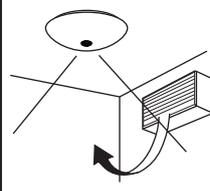
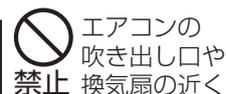
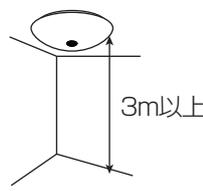
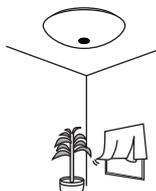
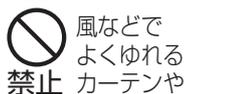
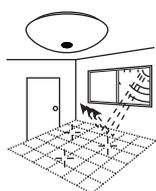
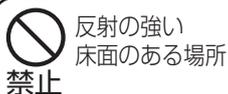
- 点灯中や消灯直後、プラスチックの伸縮によるさしき音が照明器具から発生することがあります。
- 天井の材質や構造によっては、天井面が変色することがあります。
- 停電時、停電復帰時などで予期せぬ非常に短時間の停電が発生した場合、点灯状態が変わる場合があります。  
長時間使わないときは、壁スイッチをOFFしてください。
- 壁スイッチがONの場合、消灯時も待機時消費電力を消費しています。
- LEDにはバラツキがあるため、同一品番でも商品ごとに発光色、明るさが異なる場合があります。
- LED光源は、通常のランプのようにお客様自身でのお取り替えはできません。

### 【周囲の影響】

- 器具の近くでは、ラジオやテレビなどの音響、映像機器に雑音が入ることがあります。
- 3Dテレビ用などの特殊なメガネをかけて点灯している照明器具を見た場合、縞模様やちらつきが見える場合があります。
- 点灯中にビデオカメラを使用すると、ビデオカメラのモニターや録画画像に縞模様が入る場合があります。

### センサ状態について

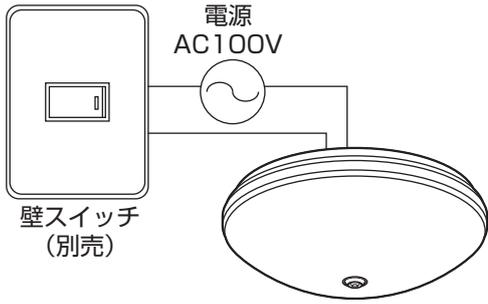
- 強い風などの影響による周囲の温度変化を検知し、点灯する場合があります。
- 夏場など気温が体温に近づいたときは、検知しにくくなります。
- 人が静止している場合は、検知範囲内でも消灯します。
- 次のような場所には取り付けないでください。  
・このセンサは周囲の明るさと温度変化を検知しますので、誤動作の原因となります。



# 配線について

配線工事は、販売店、工事店にご依頼ください

■必ず、壁スイッチを設けてください。(通常は壁スイッチをONの状態でご使用ください。)



- 壁スイッチを設置しない場合、下記のような問題があります。
  - ・センサによる動作に異常が発生したとき、リセットできません。
  - ・壁スイッチの動作による連続点灯への切り替えができません。
  - ・長期の旅行時などに、電源を切ることができません。
- 壁スイッチにパイロットスイッチを使用すると、壁スイッチがON状態でも照明器具が消灯状態(センサ待機状態)のときは、パイロットスイッチ表示が点灯しない場合があります。(故障ではありません)
- 壁スイッチは器具1台につき1個でご使用ください。  
2台以上の器具と接続すると連続点灯に切り替えるときに不具合が生じます。

## この器具の使いかた

お買い求めの器具は以下の2種類の使いかたができます

**センサによるON/OFF** でご使用の場合は、使用環境に合わせて検知範囲、点灯保持時間などを調整する必要があります。ご使用前に説明書をよくお読みのうえ調整してください。

### センサによるON/OFF

周囲が暗くなり、人が近づくとセンサの働きにより100%点灯 → 人がいなくなるとしばらくして消灯  
☞ 7ページ「検知範囲とエリアカット」、8ページ「センサの設定」参照

### 連続点灯

人の検知に関係なく100%連続点灯。  
☞ 9ページ「連続点灯への切り替えかた」参照

## 各部のなまえと付属部品

施工する前にまず付属部品をご確認ください

### 照明器具

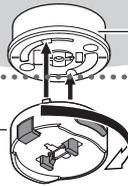
#### 本体取り付け用付属部品

エリアカットフード(1個)



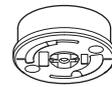
アダプタ (1個)

補修品番NZ2717M



#### 配線器具

丸型フル引掛シーリング(1個)



引掛シーリング用木ネジ(2本)



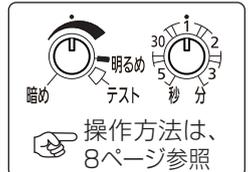
#### 配線器具

#### 本体

※器具本体裏面に3カ所ついている黒スポンジは取らないでください。(本体回転防止のため必要です)



#### 調整ツマミ



#### LED

#### コネクタ

#### 検知部(センサ)

周囲の明るさ、人の動きによる温度変化を検知します。傷つけたり、汚したりしないでください。

☞ 詳細は、7ページ参照

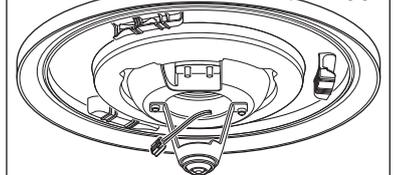
#### アングル

アングルは、本体との間にすき間を設けて取り付いているため、ぐらつきません。(異常ではありません。)

#### 枠ありタイプ※

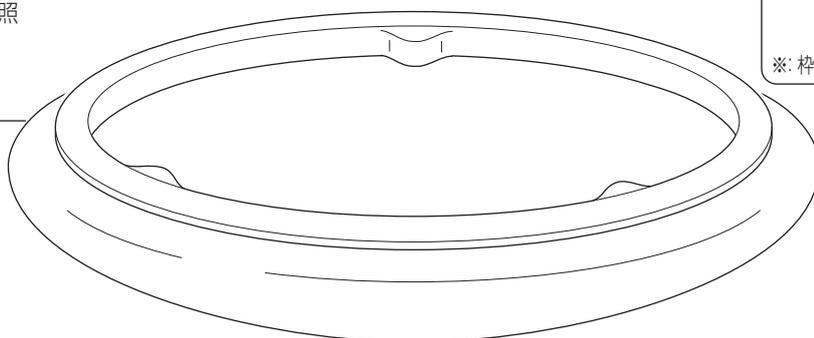
本体に枠が付きます。

#### 枠



※: 枠ありタイプの品番は、表紙をご参照ください。

#### カバー



# 照明器具を取り付ける

安全のため、電源を切ってから行ってください

※必ず壁スイッチを設けてください。

🔗 3ページ「ご使用上に関するお知らせ」参照

## 1 天井についている配線器具を確認する

天井に右記のような配線器具が付いている場合、取り付けできます。

→ 2の作業へ進んでください。

右記以外の配線器具の場合、または、配線器具が設置されていない場合は取り付けできません。

- ◎ローゼットへの取り付けで取付金具(ハンガー)部に既設器具などのネジが付いている場合は取り外してください。
- ◎販売店、工事店に配線器具の取り替え、取り付けをご依頼ください。
- ◎工事には資格が必要です。

天井からの出しりが 22 mm の配線器具		天井からの出しりが 11 mm の配線器具
丸型フル引掛シーリング WG5005 WG5015	丸型引掛シーリング WG4000 WG4420 WG4425 WG1500	引掛埋込ローゼット WG6000 WG6420 WG6130
フル引掛ローゼット WG6005	角型引掛シーリング WG1000	引掛埋込ローゼット(ハンガーなし) WG6001WK

## 2 天井の配線器具にアダプタを取り付ける

### ① 位置を合わせる

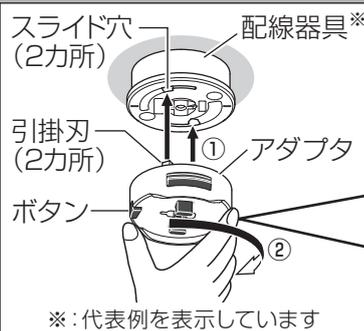
引掛刃(2カ所)を配線器具のスライド穴に入れる

### ② カチツと音がするまで

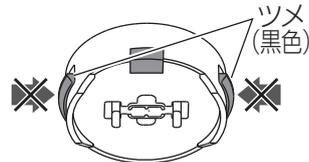
アダプタを右に回して取り付ける

**確認** ボタンを押さずに左に回して外れないことを確認する

**警告** アダプタは確実に取り付ける  
落下してけがのおそれがあります。



**×** アダプタのツメ(黒色)を押さえないこと



アダプタのツメを押さえた状態では取り付けできません

## 3 アダプタに本体を押し上げて取り付ける

### ① 本体中心にセンターパッドが取り付いていないか確認する

→ 取り付いている場合は、取り外す

🔗 表紙「器具を底板から取り外す方法」参照

### ② アダプタに本体の穴を合わせて押し上げる

- ◎配線器具により本体の取付位置が異なります。右記を参考に押し上げてください。
- ◎本体を水平にし、均等に押し上げてください。
- ◎器具裏面の黒スポンジは取り外さないでください。本体の固定ができなくなり簡単に回転します。

**確認** 本体を押し上げてもアダプタに取り付かない場合は、アダプタが正しく取り付けられていません。

→ 取り付けできない場合は、

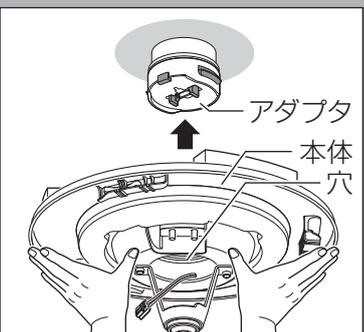
#### (1) アダプタを外す

🔗 次ページ「照明器具を取り外す」手順 3 参照

#### (2) 再度、手順 2 を行う

**警告** 本体は確実に取り付ける  
破損して感電のおそれがあります。

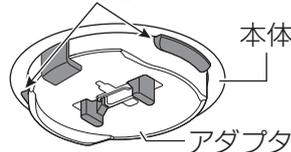
**注意** ●アングルを持って器具を持ち上げない  
●枠ありタイプ※の場合、枠を持って器具を持ち上げない  
器具破損の原因となることがあります。



**カチツ、カチツと 2度、音がするまで押し上げる**

アダプタの本体取り付け位置

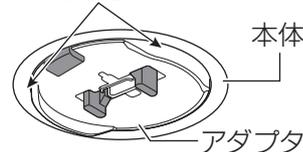
アダプタのツメ(黒色)が両方見える



**カチツと1度、音がするまで押し上げる**

アダプタの本体取り付け位置

アダプタのツメ(黒色)が両方見えない



※: 枠ありタイプの品番は、表紙をご参照ください。

## 4 本体が正しく取り付けられているか確認する

本体がグラグラしていないか、簡単に回転しないか確認する

**×** 本体がグラグラする



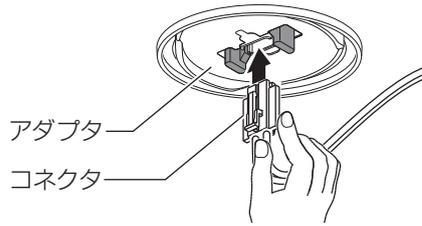
**×** 本体が簡単に回転する



上図の場合、正しく取り付けされていないので再度、手順 3 を行ってください。(次ページにつづく)

## 5 コネクタをアダプタに差し込む

コネクタをアダプタに  
確実に差し込む

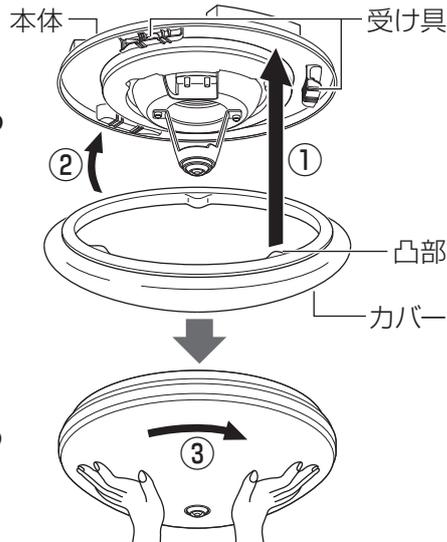


### 確認

- コネクタが差し込めない場合は、本体が正しく取り付けられていません。  
→差し込めない場合は、前ページ手順③に戻る。
- 引っ張って、コネクタが外れないことを確認する。
- 本体がグラグラしている状態や簡単に回転する状態でコネクタを差し込んだ場合は、コネクタを外して(☞下記「照明器具を取り外す」手順①参照) 本体を押し上げる(☞前ページ手順③参照)

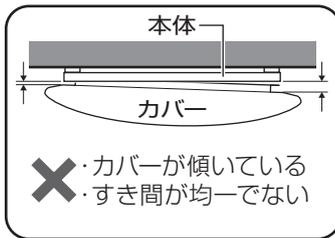
## 6 カバーを取り付ける

- ① カバーの凸部を  
本体の受け具と  
受け具の間に合わせる
- ② カバーを持ち上げる
- ③ カバーを回転が  
止まるまで右に回す  
(回転角度は、最大で約100度)
- ④ カバーが右に回転  
しないことを確認する



### 確認

- カバーが1回転しても取り付けできない場合は、本体が正しく取り付けられていません。  
→取り付けできない場合は、  
(1) コネクタを外す ☞ 下記「照明器具を取り外す」手順①参照  
(2) 本体を押し上げる ☞ 前ページ 手順③参照  
(3) コネクタを差し込む ☞ 上記 手順⑤参照  
(4) 再度、手順⑥を行う
- カバーが傾いていないか、すき間が均一になっているか確認する。  
→カバーが傾いたり、すき間が均一でない場合は、カバーの凸部が受け具にはまっていない可能性があります。  
カバーを左に回して外し、再度、手順⑥を行う



## 警告



本体が簡単に回転しないことを確認してからカバーを取り付ける  
破損して感電のおそれがあります。

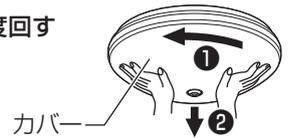
## 注意



カバーは確実に取り付ける  
落下してけがのおそれがあります。

### カバーの外しかた

- ① カバーを左に約40度回す
- ② カバーを外す



### 確認

- カバーが1回転しても取り外せない場合は、本体が正しく取り付けられていません。  
→取り外せない場合は、  
本体を押しさえながらカバーのみを左に回して外し、本体を正しく取り付け

枠ありタイプ※の場合  
枠を押しさえながらカバーのみ  
を左に回して外す



☞ 左記 確認 手順(1)~(3)参照

## 注意



枠ありタイプ※の場合、カバーを外すときは  
枠を持って回さない  
本体が落下してけがの原因となることがあります。

※: 枠ありタイプの品番は、表紙をご参照ください。

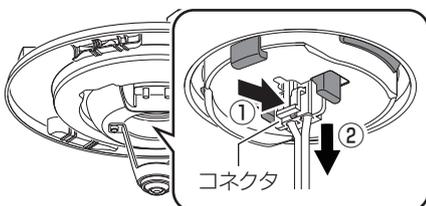
# 照明器具を取り外す

安全のため、電源を切ってから行ってください

1

## コネクタを外す

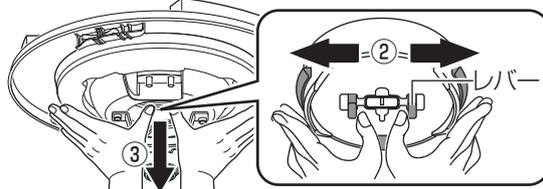
- ① つまみながら
- ② 引いて、外す



2

## 本体を外す

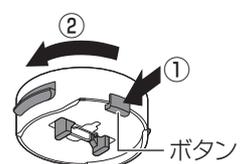
- ① 本体が落ちないようにしっかりと支え
- ② レバーを矢印の方向(左右)に広げたま
- ③ 本体をゆっくりと下げて、外す



3

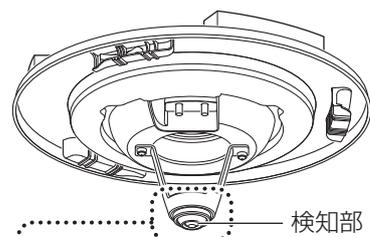
## アダプタを外す

- ① ボタンを押しながら
- ② 左に回す



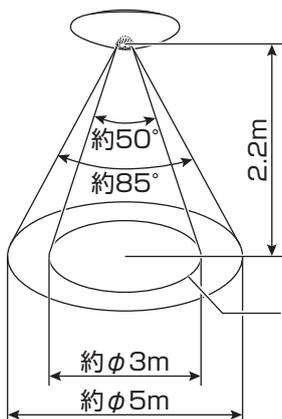
# 検知範囲とエリアカット

- 検知部は真下にした状態から全方向に約20°可動します。
- センサはおよそ下図の「検知範囲」で検知します。  
下図の「検知範囲」を参考にして検知部の角度を調整してください。  
(記載の検知範囲はあくまで目安としてお考えください。)
- 検知範囲は、付属のエリアカットフードを取り付けることで狭くできます。  
取り付け方法は、下図の「エリアカットフードの取り付けかた」を参照ください。

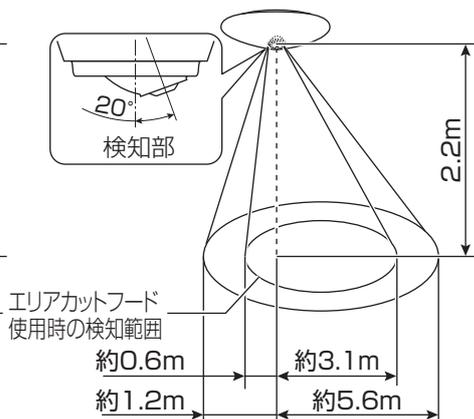


## 検知範囲

検知部0°(真下)の場合

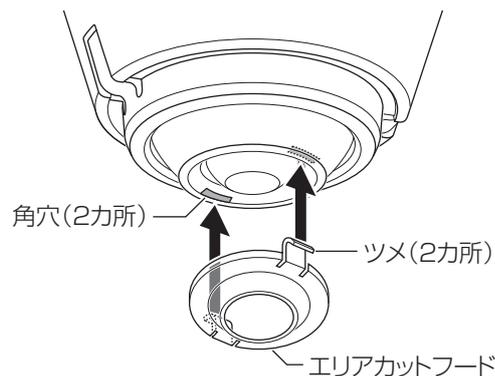


検知部を20°傾けた場合



## エリアカットフードの取り付けかた

エリアカットフードのツメ(2カ所)を検知部の角穴(2カ所)に入れて取り付ける

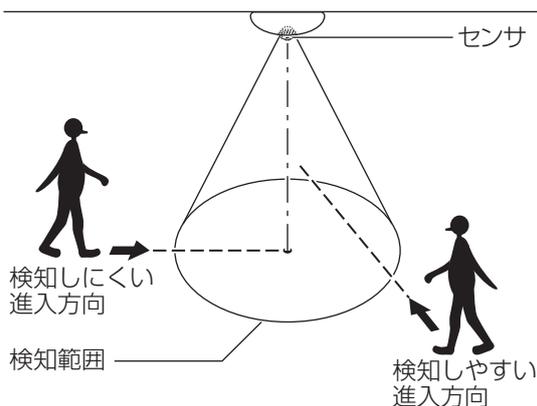


- センサは、人の動きなど温度変化を検知しています。

## ■センサ動作について

### 検知しにくくなる場合

- ・肌の露出部分が少ない場合(着衣の表面温度は一般的に体温よりも周囲温度に近いため)
- ・夏場など周囲温度が体温に近い場合
- ・検知部を可動させ広がった側の検知範囲
- ・検知範囲に入る速度が速い場合
- ・センサの向いている方向に向かって近づいた場合



### 誤動作について

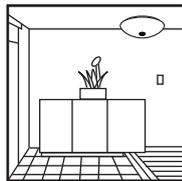
検知周囲内に熱源<sup>※1</sup>があると人がいなくても点灯する場合があります。

※1) 照明器具、エアコン、犬や猫などの動物など

# センサの設定

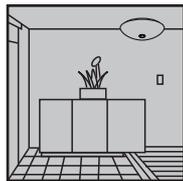
## ■センサによるON/OFFの動作イメージ

昼など明るい時



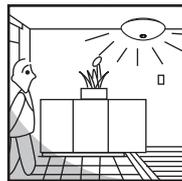
消灯

周囲が暗くなると



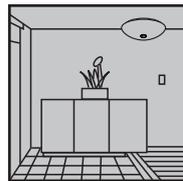
消灯のまま

人が検知範囲に入ると



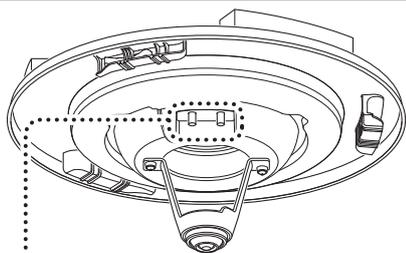
点灯

人がいなくなると

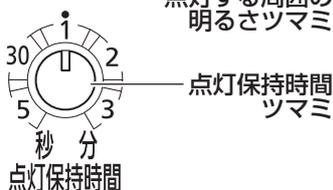


点灯保持時間後に消灯

(人がいても動きを検知しない場合は、消灯することがあります。)



### 調整ツマミのなまえ



### 調整ツマミのはたらき

#### ●点灯保持時間

人が検知範囲からいなくなるまたは、静止してからの点灯時間を設定できます。(設定可能時間:5秒~3分)  
ツマミの凹部を設定したい時間に合わせます。

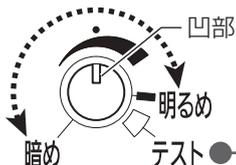


#### 注意

下記の点灯する周囲の明るさツマミを「テスト」にすると、点灯保持時間のツマミの位置に関係なく約5秒に固定されます。

#### ●点灯する周囲の明るさ

センサがはたらき始める周囲の明るさを設定できます。ツマミの凹部を設定したい明るさに合わせます。「テスト」は右いっぱいには回す事で周囲の明るさに関係なく動作することができます。



※ツマミを調整する場合は、いったん左いっぱいに回して右回しで合わせてください。

## 3 調整ツマミの設定を変更する

動作確認のため、点灯する周囲の明るさツマミのみを下記のように合わせる

ツマミの凹部を右いっぱい(「テスト」まで)に合わせる

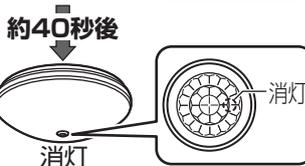


## 4 壁スイッチをONにし、検知範囲から離れる

①壁スイッチをONにして点灯させる  
(ONした直後は必ず点灯し、検知部が赤く点滅します)



②検知範囲から離れる



③約40秒後に消灯することを確認する



## 5 検知範囲を確認する

検知範囲に入ると点灯し、離れると約5秒で消灯します。

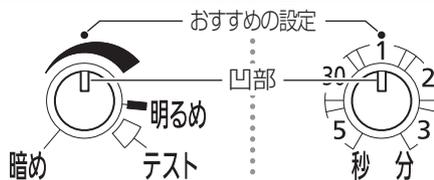
☞7ページ「検知範囲とエリアカット」を参照して検知範囲の確認または再設定を行う。

## 6 壁スイッチをOFFにする

## 7 点灯する周囲の明るさ、点灯保持時間を設定する

調整ツマミを回し、センサのはたらき始める周囲の明るさ、点灯時間を設定する

おすすめの設定  
点灯する周囲の明るさ → 「●印」  
点灯保持時間 → 「●印」(1分)



ツマミの凹部はお好みの位置に合わせてください。  
※ツマミを調整する場合は、いったん左いっぱいに回して右回しで合わせてください。

点灯する周囲の明るさツマミを「テスト」で使用すると、点灯保持時間が約5秒に固定されます。  
詳しくは、☞左記「調整ツマミのはたらき」参照

## 8 カバーを取り付ける

☞6ページ「照明器具を取り付ける」手順6参照

## 9 壁スイッチをONにする

## 1 壁スイッチをOFFにする

## 2 カバーを外す

☞6ページ「照明器具を取り付ける」手順6参照

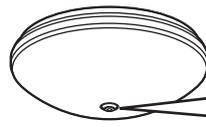
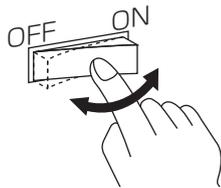
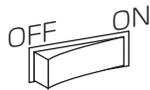
# 連続点灯への切り替えかた

壁スイッチで切り替えられます

壁スイッチで切り替えられます

## 1 ONの状態から

## 2 素早く(約1秒以内)OFF→ONにすると連続点灯になります



### メモ

連続点灯をやめたいときは、もう一度壁スイッチを素早く(約1秒以内)OFF→ONしてください。

- 点灯する周囲の明るさツマミで設定した明るさより、周囲が暗いときに連続点灯への切り替えができます。(壁スイッチをONした直後から約40秒後より連続点灯への切替ができます。)  
周囲が明るいときに連続点灯させたい場合は、点灯する周囲の明るさツマミを「明るめ」側に調整します。ツマミを右いっぱい(「テスト」まで)に調整すると、周囲の明るさに関係なく切り替えできますが、センサによる動作に戻った際は、点灯保持時間は約5秒になります。詳しくは、8ページ「調整ツマミのはたらき」を参照してください。
- 連続点灯していても、下記のいずれかの状態になると自動的に消灯し、センサによる動作に切り替わります。
  - ・約2時間連続点灯した後に点灯する周囲の明るさツマミで設定した明るさより、周囲が明るくなった場合
  - ・約15時間連続点灯した場合

# 故障かな?と思ったら

下表に従って点検してください

現象	考えられる原因	処置	参照ページ
本体が取り付けられない	アダプタが正しく取り付けしていない	①アダプタを外し…………… ②再度、アダプタを取り付ける……………	6ページ ③ 5ページ ②
検知範囲に入っても点灯しない	壁スイッチ(電源)がOFFになっている 点灯する周囲の明るさ調整ツマミが「暗め」になっているなど、設定した明るさより周囲が明るい 検知部の向きが傾いている	壁スイッチをONにする 点灯する周囲の明るさ調整ツマミを「明るめ」(右方向)に回す 検知範囲を調整する(検知部の角度を変える)	— 8ページ 「センサの設定」 7ページ 「検知範囲とエリアカット」
検知範囲が小さい	検知範囲が適切でない エリアカットフードが取り付けられている 検知部が汚れていたり蒸気などの水滴がついている 暑い日などに周囲温度と人体の温度差が少ない	エリアカットフードを取り外す 検知部を柔らかい布で傷がつかないようにふきとる 本センサは人の動きによる温度変化を検知するため左記の場合検知しにくいことがあります	7ページ 「検知範囲とエリアカット」 7ページ 「検知範囲とエリアカット」
検知範囲に入っていないのに点灯する	検知範囲に人以外の熱源がある 風などでよくゆれる物(カーテン、植物) ストープなどの暖房器具	熱源を検知範囲より動かす	—
人がいなくなってもなかなか消灯しない	壁スイッチをONした直後(検知部が赤く点滅している) 点灯保持時間が長く設定されている	壁スイッチON後、約40秒は周囲の明るさに関係なく必ず点灯します(故障ではありません) 点灯保持時間を短く設定する	8ページ 「センサの設定」 8ページ 「センサの設定」
周囲が明るいのに検知範囲に入ると点灯する	壁スイッチの切り替えにより連続点灯になっている(検知部が赤く点灯している)	壁スイッチを素早く(約1秒以内)OFF→ONしてセンサ動作に切り替える	9ページ 「連続点灯への切り替えかた」
検知範囲に入ると点灯する	点灯する周囲の明るさ調整ツマミが「明るめ」になっている	点灯する周囲の明るさ調整ツマミを「暗め」(左方向)に回す	8ページ 「センサの設定」
検知範囲に入っているのに消灯する	人が静止している(動きが小さい) 点灯保持時間設定が短い 壁スイッチをONした直後から約40秒後である	少し動けば点灯します(故障ではありません) 点灯保持時間を長く設定する 壁スイッチをONして約40秒後は検知の有無に関係なく必ず消灯します(故障ではありません)	7ページ 「検知範囲とエリアカット」 8ページ 「センサの設定」 8ページ 「センサの設定」
点灯保持時間が設定した時間よりも短い	点灯する周囲の明るさ調整ツマミが「明るめ」のラインを超えて「テスト」になっている	ツマミをいったん左いっぱい(「テスト」)まで回して「テスト」以外で再度調整する	8ページ 「調整ツマミのはたらき」
検知しにくいときがある	室温が高くなり、人と床面の温度差が小さい	温度変化量を検知しますので、温度変化が小さい場合、検知しにくくなります(故障ではありません)	7ページ 「検知範囲とエリアカット」
ずっと点灯している	壁スイッチの切り替えにより連続点灯になっている(検知部が赤く点灯している)	壁スイッチを素早く(約1秒以内)OFF→ONしてセンサ動作に切り替える	9ページ 「連続点灯への切り替えかた」

### 上記の処置を行っても現象が続く場合

- ①電源をいったん切る
- ②約5秒以上経ってから再び電源を入れる

●上記の点検でなお異常のある場合には、ただちに電源を切り、ご購入の販売店、工事店、お客様ご相談窓口(保証書内在中)にご相談ください。

## お手入れについて

安全のため、電源を切ってから行ってください

- 明るく安全に使用していただくため、定期的（6カ月に1回程度）に清掃してください。
- 汚れがひどい場合は、石けん水に浸した布をよく絞ってふき取り、乾いたやわらかい布で仕上げてください。

### 確認

シンナー、ベンジンなどの揮発性のものでふいたり、殺虫剤をかけたりしないでください。変色、破損の原因となります。

## 仕様

保証書またはカバーのラベルをご参照していただき、品番にチェックをしてください。

品番	使用電圧	周波数	消費電力	入力電流	光色
<input type="checkbox"/> LGBC81022LE1 <input type="checkbox"/> LGBC81032LE1 <input type="checkbox"/> LGBC81042LE1	AC100V	50/60Hz共用	17W（センサ待機時 約1W）	0.28A	昼白色
<input type="checkbox"/> LGBC81023LE1 <input type="checkbox"/> LGBC81033LE1 <input type="checkbox"/> LGBC81043LE1					電球色

- LED照明器具の光源寿命は、40,000時間です。（照明器具の寿命とは異なります。）光源の寿命は、点灯しなくなるまでの総点灯時間または、全光束が点灯初期の70%に下がるまでの総点灯時間のいずれか短い時間を推定したものです。

## 保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは…

- まず、お買い上げの販売店へご相談ください
- ▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名

電話 ( ) ー  
お買い上げ日 年 月 日

- 保証期間中は、保証の規定に従って出張修理いたします。
- 保証期間終了後は、診断をして修理できる場合は、ご要望により修理させていただきます。

\*修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	診断・修理・調整・点検などの費用
部品代	部品および補助材料代
出張料	技術者を派遣する費用

- アフターサービスについてのご不明な点や修理に関するご相談は、お買い上げの販売店またはお客様ご相談窓口（保証書内在中）にお問い合わせください。

修理を依頼される時は…

まず電源を切って、お買い上げ日と以下の内容をご連絡ください。

- 製品名 住宅用照明器具
- 品番 上記「仕様」をご参照ください。
- 故障の状況 できるだけ具体的に

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

ただし、LED電源については3年間です。

\*保証の例外 24時間連続使用など、1日20時間以上の長時間の使用の場合、保証期間は半分となります。

補修用性能部品の保有期間 **6年**

\*当社はこの照明器具の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。

パナソニック株式会社 ライティング事業部

〒571-8686 大阪府門真市門真1048 © Panasonic Corporation 2016 - 2021  
LGBC81022LE1 - T3A3

LED ー 小型センサ ー ②  
N0616 - 031021

